

東広島植物園では、園内での活動を中心に、温室や圃場で見られる季節の花など、さまざまな情報を紹介しています。

☆組織改編・・・植物管理室は、2019年4月より統合生命科学研究科・附属宮島自然植物実験所の所属となりました。

教育支援の植物栽培

東広島植物園では、学生実験や研究教育用にさまざまな植物を栽培して支援しています。オオムラサキツクサやヘチマ、トウモロコシは、生物基礎実験に用いるため毎年栽培しています。



植物園に生育しているゼニゴケ、シャジクモ、マツバラ、ツバキ等も授業で利用されるため、健全な植物体を維持し栽培管理しています。さらには、卒論研究な



どのために温室や圃場にて学生や教員が植物を栽培しており、技術支援等を行っています。



研究用に依頼を受け圃場で栽培をしているフロコリー

学生実験で使用されるゼニゴケ

キャンパスのツツジ

東広島キャンパスでは、建物周辺や道路沿いに植え込みとしてヒラドツツジが多数用いられています。ヒラドツツジの品種は300ほどあり、その中で代表的な品種が、花が大きく大気汚染にも強いオオムラサキツツジです。



オオムラサキツツジ



クルメツツジ

ほかには、鮮やかな小型の真っ赤な花を枝いっぱい咲かせるキリシマツツジがあります。花は朱色が基本ですが、紅紫や白もあります。キリシマツツジのうち花弁が二重になって咲くものは、クルメツツジと呼ばれています。6月にはサツキが開花します。



花壇のチューリップ



静かなキャンパスで咲くチューリップ。

昨年、緑化ボランティアのみなさんによって植え付けられたチューリップが咲きました。今年は、入学式やオリエンテーションも中止となり、見られる方もやや少なかったようですが、例年通りきれいな花を咲かせてくれました。



図書館の花壇では、年に2回花苗等の植え付けを行っています。学生さんや教職員のみなさんのご参加をお待ちしております。

栽培実習・春コース



いつ再開してもいいように苗の栽培を行っています。

本来なら4月から開始の春コースですが、今年はコロナ感染症拡大防止のため、講座が開始出来ません。一部可能な学生さんにより3密を配慮して、種まきや移植の作業を行いました。授業が再開できる日を期待し、今後の作業は職員を中心に進めていきます。



山中池の湿地保全



キャンパスの希少種保護に向けて

4月に大学の保全チームのみなさんにより草刈りが行われました。同時に、湿地植物の自生する区域の保護ロープの補修を行いました。山中池周辺は、自然公園としての価値だけでなく希少生物の生育地としても重要な場所です。



桜や藤の咲く広場もあります

二神山ハイキング

3月30日、学童保育の子どもたち14名が、二神山でハイキングを行いました。今回は、里山の野鳥がどんなところにいるか観察をしながら楽しく登りました。山頂では、野鳥クイズも行いました。二神山は地域の方の尽力で安全に整備されています。



園内の花

シャガ *Iris japonica*



アヤメ科

やや湿ったところに群生する多年草。開花期は、4~5月。3倍体のため種子が発生しない。人為的影響の少ない自然林にはあまり発生しない。

園内の樹木

ゴモジュ *Viburnum suspensum*



ガマズミ科(レンブケウ科)

沖縄および奄美大島産の常緑低木。関東以西では庭木として利用。4月頃、やや桃色がかかった白い花を円錐状につける。葉を揉むと胡麻のようなにおいがする。



【お問い合わせ先】

広島大学 統合生命科学研究科
東広島植物園

TEL:082-422-7111
(内線2842)

E-mail : tshioji@hiroshima-u.ac.jp